

# イチゴ「ゆうやけベリー」は 摘花により L 規格以上の収量が増加する

福島県農業総合センター 作物園芸部 品種開発科

## 1 部門名

野菜－イチゴ－生理・生態

## 2 担当者名

門田智絵、三田村春香

## 3 要旨

本県育成イチゴ品種「ゆうやけベリー」の摘花による効果は明らかにされていない。そこで、摘花が収量及び果実品質に及ぼす影響について試験した結果、弱摘花（頂花房を 10 花に摘花、その後は摘花なし）又は強摘花（頂花房及び第一次腋花房を 5 花に摘花、その後は摘花なし）を行うと、L 以上の収量が増加した。

- (1) 強摘花では、無処理と比較して、平均果重が重かった。また、商品果率の割合が高く、L 以上の収量が多い傾向であった（表 1、図 1）。
- (2) 弱摘花では、商品果率の割合がやや高く、L 以上の収量が多い傾向であった（表 1、図 1）。
- (3) この成果は、2023 年度の高設栽培における試験で得られた結果である。

表 1 摘花による商品果収量及び果実品質

摘花処理	1 株当たり		平均 果重 <sup>b</sup> (g)	商品 果率 <sup>c</sup> (%)
	合計 個数 <sup>a</sup> (個)	合計 収量 <sup>a</sup> (g)		
強摘花	12.2	220.8	18.1	90.6
弱摘花	17.7	266.0	15.0	80.5
無処理	16.3	237.6	14.5	73.9

<sup>a</sup> 6.0g以上の正常果（病害果、奇形果を除く）の合計である。

<sup>b</sup> 商品果重/商品果数

<sup>c</sup> 商品果数/総果数×100

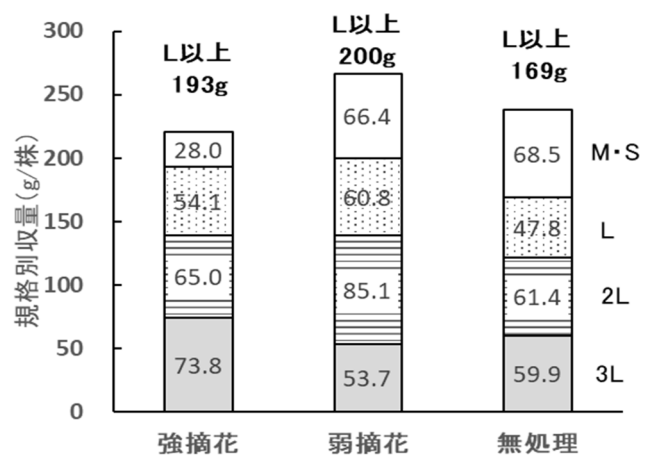


図 1 摘花による規格別収量への影響

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 個性豊かな県オリジナル野菜・花き新品種の育成〔福島県産農産物競争力強化事業（研究）〕

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 三田村春香ら，イチゴ新品種「福島 ST14 号」の育成，福島県農業総合センター研究報告第 14 号，2024